

The 2nd,  
WFA  
FOOTBALL  
CONFERENCE  
Report 2016

## はじめに

昨年度の「きのくに和歌山国体」では、皆様ご存じの通り、少年男子チームの快進撃により、開催地の上富田町を中心として、和歌山県サッカーが大いに盛り上がりました。

一般社団法人 和歌山県サッカー協会（以下、WFA）技術委員会では、これを契機に、和歌山県のサッカーが今後さらなる普及と発展に向かうため、昨年度、第1回目となる「WFA FOOTBALL CONFERENCE」を開催しました。

本年度もサッカーを愛するすべての方々（サッカーファミリー）を対象に、情報発信・共有の場として本カンファレンスを開催いたしました。

【第一部】では、WFAスポーツ医科学委員会より服部祐介氏を招き、育成年代のスポーツ障害についてご講義いただきました。服部氏は数年にわたってトレセンや国体少年男子チームに関わってこられた方です。スポーツ医科学委員会へ依頼させていただきました折にも快くお引き受けいただきました。誠にありがとうございます。同じ育成年代の選手に携わる立場として、今後は、今回のような講演だけでなく、指導現場や研修会での実技講習など、様々な「コラボレーション」の可能性を模索していければと考えております。

【第二部】では、WFA技術委員会事業に関わる4名が「今後の方向性」について提案発表しました。我々からの「情報発信」だけでなく、今回ご参加いただいた方からもご意見をいただけたことに改めて感謝申し上げます。今後も双方向性を大切にし、情報の「共有」と取り組みの「協働」を目指し、和歌山県サッカーをさらに盛り上げていきたいと考えております。

【第三部】には、公益財団法人 日本サッカー協会（以下、JFA）地域ユースダイレクターの松田浩氏をお迎えし、守備戦術についてのご講義をいただきました。松田氏はJリーグでの監督経験もお持ちの方で、図やアニメーション、映像を交えながらのご講義はわかりやすく、ためになるお話でした。WFAの今後の活動につなげて行きたいと考えております。

最後になりましたが、この報告書が少しでも皆様の情報共有に生かされ、今後の活動の活性化に繋がればと願っております。

今後とも、WFA技術委員会の活動にご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 開催概要

**目的** 和歌山県サッカーのレベル向上のため、ユース育成年代に関する意見交換や研修を行う。  
指導者同士の種別を越えたネットワークづくりやコミュニケーションを図る。  
WFA技術委員会の方向性の共有と指導者のレベルアップ、ブラッシュアップを行う。

**日時** 平成28年12月23日(金) 10:00～17:00 (受付9:30～)

**内容** 【第1部】「育成年代のスポーツ障害（腰椎分離症）について」  
【第2部】「WFA技術委員会のビジョンと方向性」  
【第3部】「ゾーンディフェンス - ボールを中心とした守備 -」

**講師** 松田 浩 氏 (JFA地域ユースダイレクター)  
服部 祐介 (WFA医科学委員会)

**日程**

9:30 受付

10:00 オープニング 挨拶 (藤村 温 技術委員長)

10:10 [第一部]  
育成年代のスポーツ障害（腰椎分離症）について (服部 祐介)

11:40 昼食・休憩

13:00 [第二部]  
WFA技術委員会のビジョンと方向性 (技術委員会 各部代表)

14:45 [第三部]  
ゾーンディフェンス - ボールを中心とした守備 - (松田 浩氏)

16:45 クロージング 挨拶 (松尾 敏宏 ユースダイレクター)

## 【 活 動 報 告 】

〔第一部〕 育成年代のスポーツ障害（腰椎分離症）について （文責：服部）

WFA スポーツ医科学委員会より服部祐介トレーナーが、育成年代の選手に対しての障害予防方法、医療機関での腰椎分離症の診断基準や保存療法について講義と実技を踏まえ報告しました。

報告内容

- ① 子どもの姿勢に対する声かけの工夫
  - ② 成長痛（骨端症）とは
  - ③ 腰椎分離症の診断基準および保存療法について
  - ④ 効果的なストレッチの確認 など
- 
- ① 猫背の子どもに対する声かけとして、肩甲骨の内転位や胸椎の伸展姿勢や座位の取り方などプレー以外の時の姿勢を改善することが重要であると報告されました。
  - ② 成長痛の対応として、成長痛の種類や骨端症について実際の画像を使って医療機関での診断基準や受傷メカニズムや対応策などが報告されました。
  - ③ 育成年代の腰椎分離症に対する理解度を深めるため、腰椎分離症の診断基準や医療機関からプレー可能か中止の指示が出たときの対応策が報告されました。  
腰椎分離症は再発予防方法がまだ解明されておらず、各関節の柔軟性獲得や体幹筋力の増強が最低限必要であるため、育成年代へのトレーニング内容などの工夫が必要と報告されました。
  - ④ 普段指導しているストレッチ方法が正しいかどうか、実技を踏まえ再確認をおこなった。正しいストレッチ方法を指導することで効果的な障害予防につながり育成年代のパフォーマンス向上につながると報告されました。

まとめ

今回の講義を通して、育成年代と成年の違いや子ども特有の傷害の特徴を理解することで育成年代の選手に対する指導方法の広がりを持って頂ければと思っております。強度の強い運動負荷をかけてもいい段階と、制限をかけなければいけない段階など、子どもの体は成長度合いをみながら判断していかなければいけません。スポーツ医科学委員会として、今回のような講義を通して少しでも指導者の方との交流を図り、よりよいスポーツ環境を作っていきたいと考えています。

## 〔第二部〕技術委員会のビジョンと方向性

(文責：平)

WFA技術委員会より、藤村・松尾・平・吉野の4名が発表し、それぞれの立場から技術委員会としてのビジョンや方向性を示しました。内容は以下の通りです。

- (1) 藤村 技術委員長 「技術委員会のビジョンと方向性」
- (2) 松尾 ユースダイレクター 「国体に向けたトレセン活動とトレセン認定制度」
- (3) 平 指導者養成部長 「B級スタンダードについて」
- (4) 吉野 インストラクター 「ウェルフェア・オフィサー養成研修を受講して」

### 藤村 技術委員長

“Made in WAKAYAMA”を合言葉に、選手たちが「和歌山で育ってよかった」と思えるような環境づくりを進めていくことや、大都市ではなく地方だからこそ「誰もが主役になってもらいたい」というメッセージを発信しました。また、今後のWFA技術委員会の活動を考えていく上で、参加者の方々から意見や要望をいただきたいと、本セッションの進め方についても提示いただきました。

### 松尾 ユースダイレクター

2015和歌山国体少年サッカーの部における和歌山チームの躍進について、県や地区トレセンでの様々な活動が実を結んだ「育成の勝利」と位置づけ、それまでの取組を紹介していただきました。その中で、指導者や地域・組織の“**本気の取組**”が選手たちの成長に大きな違いを生むことを強調し、「本気のトレセンとはどんなトレセンであるべきか」と訴えかける内容でした。

また、トレセン認定制度について経緯報告があり、トレセンスタッフのひとつのステータスとして、ライセンス取得を推奨しました。和歌山県や各地区の代表選手を預かるスタッフである以上、責任と自信・誇りをもって指導してもらいたいと思います。

### 平 指導者養成部長

単刀直入に「県内指導者のスタンダードをB級にしたい」という思いを示させていただきました。「B級を取らなければいけない」というものではありませんが、指導力向上を目指す“**学ぶ姿勢**”が選手の成長に与える影響は大きいと考えています。B級講習会受講にあたってネックになっている費用や日程の問題・要望を受け止め、「できない理由」ではなく「できる方法」を模索していく方向で共有しました。

### 吉野 インストラクター

ウェルフェア・オフィサー養成講習会を受講され、今後県内で中心となって活動を広めていくために、その存在意義や活用法についてご報告いただきました。経験者のコメントや、活用にあたっての留意点も示していただき、「交流の機会」というポジティブな捉え方で各種別にて一斉に取り組んでいきたいという方向性も提示していただきました。

JFA地域ユースダイレクターの松田浩氏をお迎えし、Jクラブ監督時代に実践していた「ゾーンディフェンス」について、ご講演いただきました。

“自分のゾーンを守る” “役割分担制” “マークの受け渡し” などのイメージが強いゾーンディフェンスですが、松田氏の「ボールを中心とした守備」の考え方により、ゾーンディフェンスのイメージを一新していただきました。「ボール状況」と「味方との位置関係」を最重要視し、「ボール周辺の雲行き」という表現を使いながら、映像やアニメーションで実際に動きを見せていただけたことで、非常にわかりやすい内容となりました。また、参加者から“選手のコーチング”に関する質問があった際にも明確に答えていただきました。

「コーチングが悪いとは思わないし、最終手段として必要と考えている。ただ、選手たちがボールの奪い方を理解し、共有できていれば、コーチングがなくても1stDFの判断が生まれ、それを見た2ndDF, 3rdDFの判断に繋がってくる。むしろ「行け！」とコーチングされてからでは遅れる場合が多く、身を売りに行くようなものだ。

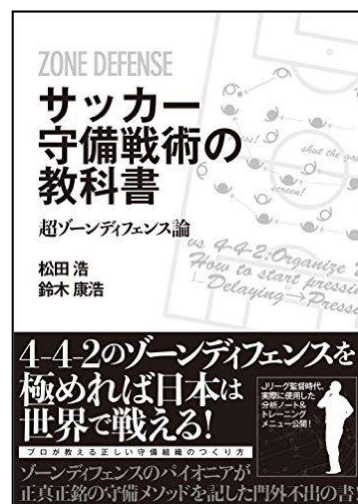
(※奪えない(遅れた)タイミングで奪いに行ってしまうことで、危険なところにDFが足りなくなる)



選手たちには、「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」奪いに行くのか、全体像と個々の役割を理解させ、守備の戦術を遂行していたそうです。チームとしてベースとなる守備の考え方がありながら、“相手のシステム” “タレント” “パワーバランス” 等、ゲームにより戦術を変化させる柔軟さを持たせていたということでした。

このような戦術的柔軟性を身に付けるためにも、育成年代では、形式的に同じ距離感でポジションをとらせたり、パターン的に守備の戦術を用いたりするのではなく、あくまで「ボール周辺の雲行き」を感じてポジションを微調整し、狙いと危機管理を判断していく「個人戦術」を身に付けていくことが重要だということです。

最後に、著書である「サッカー守備戦術の教科書」を紹介し、貴重なご講演を締めくくってくださいました。松田様、本当にありがとうございました。



## －成果と課題・要望－ (文責：平)

年末のお忙しい中、カンファレンスにご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

また、遠方より和歌山県まで足を運んでいただきました松田様にも、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

「第2回 WFA FOOTBALL CONFERENCE」は、41名の参加をいただきました。トレセンスタッフや各種別の方々、また他府県の方々にもご参加いただき、積極的に質問や交流をしていただけました。本カンファレンスは、WFA 技術委員会としての考えを発信する役割を担っていますが、一方通行でなく、参加いただく皆様との双方向でつくっていきたいと考えています。また、医事委員会とのコラボレーションも実現し、今後さらに発展した事業を考えていくきっかけとなりました。成果と課題を記します。

## －成果－ (アセスメントより)

### 【第1部】

- ・スポーツトレーナーさんの話を聞く機会が今までなかったので、予防や対処法など自身の視野が広がってよかった。
- ・ストレッチの方法や、ケガの原因について、初めて知ることが多くとても参考になった。根性論ではなく、子どもたちの将来のために、もっと学んでいきたい。
- ・とてもわかりやすく、指導にすぐ取り入れられる内容だったと思う。
- ・サッカーだけでなく、すべての競技につながるよい話が聞けてよかったです。
- ・自分がかかわっている年代だけでなく、それまでの成長過程を知ることが必要だと感じた。

### 【第2部】

- ・和歌山県として目指す方向を示し、周知していくことは必要なことで、大変よかった。
- ・和歌山国体に対して、中期的な戦略を立てて取り組んでいたことに感心した。自チームや学校でも、中・長期的な目標・戦略を立てて取り組む必要がある。
- ・これからの和歌山県サッカー発展のために、種別の枠を越えて多くの方々とつながりを深めていきたい。
- ・横のつながりで動くことが多いので、ウェルフェア・オフィサーなどをうまく活用して縦のつながりもつくっていければと思いました。
- ・協会の動きや考えが聞けて、協会との関係が身近なものになったと感じました。

### 【第3部】

- ・プロチームの指導者としての目を持った方の話は、とても楽しかった。育成年代でどう伝えるか、考えて選手に還元していきたい。
- ・感覚的な理解であったものが、言語化されて理解できたのでよかった。
- ・映像がわかりやすく、目的が整理されていて見やすかった。
- ・JFAの方の話を知る機会はそう多くないので、貴重なお話を聞かせてもらえてよかった。

#### 一課 題一（事務局）

- ・規模の拡大を進めなければならない。  
開催時期・アナウンスには一定の評価をいただけたが、開催地域を検討したり、内容の発信を工夫したりして、より多くの方々に参加いただけるようにしたい。
- ・当日の資料配布に不手際があった。事前の準備や当日の流れなど、打合せをより綿密にしなければならない。

#### 一要 望一（アセスメントより）

##### 内容について

- ・膝や足首など、ケガの多い部位についても詳しく教えていただきたいと思いました。
- ・体のケアやウォーミングアップでのストレッチなど、さらに詳しく聞きたくなりました。ストレッチ等の講習会を開いてください。
- ・女子のカテゴリーでも、3種・4種とつながりをもてれば、向上につながると思うのですが。
- ・協会HP等で、トレセンの内容等を具体的に発信してほしい。
- ・普及にももっと力を入れていく方向がよいのではないか。

##### 全体について

- ・毎年、地域を変えて開催すれば、参加できる人も増えるのではないか。日程は固定することで、各種別の大会等スケジュール調整はしやすいと思う。
- ・紀北と紀南の中間地点で開催すればいいと思う。
- ・申し込み後、参加OKのメール返信等あればわかりやすい。
- ・1～3種の方が多かったので、4種の方ももっと参加できればいいと思う。

## 【 御 礼 】

**アセスメントにご記入いただき、ありがとうございました。**

**皆様のご意見をもとに、本カンファレンスをよりよいものにしていきたいと考えております。  
今後とも、WFA技術委員会に対しまして、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。**



## おわりに

日本にJリーグが誕生して24年が経ちましたが、和歌山県では、未だJリーグのチームが存在しないのが現状です。これは、本県の育成年代選手にとっては、普段からプロのサッカー選手のテクニックや戦術などを、直接見る機会が圧倒的に少ないことを意味します。逆行形成という観点からすると、本県の育成年代選手は、他府県と比べて、選手自身が目指すプレーヤーやプレイそのものをイメージしにくいと思われます。

そんな中、2015年に開催された「紀の国わかやま国体少年の部」で、第3位になれたことは、本県のサッカー関係者にとって、多大な喜びや希望、そしてやればできるという自信、さらには、これからもやっていかなければならない使命感を与えてくれたことと感謝しています。これは、ひとえに、国体選手・スタッフの努力はもちろん、4種、3種、2種の積み上げの成果であると同時に、施設面での充実が大きく影響したと考えます。今後も、カンファレンスで述べさせていただいたように、先を見据えた一貫指導をさらに充実したものにしていくこと、常に指導者が世界基準を意識した指導を思考すること、そして、そこから逆算して今自分が携わっている選手をどう指導し、変化させていくかに着眼していけるような思考ができるよう技術委員会が中心になり、この点を啓蒙しなければならないでしょう。とはいえ、課題も山積みで、女子トレセンのさらなる充実、地区トレセンの充実、世界基準を見据えた海外遠征やフェスティバルの開催、ユース審判のさらなる充実、中体連指導者のB級取得、紀北地域でのトレセンの拠点づくり、普及に対する協力等まだまだたくさんあると考えます。

そして、今回で第2回目となるカンファレンスを開催することができ、参加人数も昨年度より増えるとともに、各発表でも積極的な質問やご意見をいただき、充実したカンファレンスであったのではないかと思います。アセスメントでも、たくさんのご意見をいただき誠にありがとうございました。来年度の技術委員会の活動やカンファレンスに生かしていきたいと思えます。今後とも、和歌山のサッカー界をみなさんとともに盛り上げていきましょう。

最後になりましたが、この2年間で、ナショナルトレセンコーチの松田浩様には、今回のカンファレンスだけでなく、幾度となく本県に来て頂き、指導者講習会や県トレセンへのご指導ご鞭撻、JJP開催、中体連研修会等、誠意をもってご指導頂いたことに対して多大な感謝を申し上げます。